

論文要旨

I 研究の背景

近年、我が国では女性の社会進出に伴い、夫婦の共働きが一般化し、保育需要が急増している。保育園における慢性疾患を持つ子どもや、医療的なケアや特別な配慮が必要とされている子どもの存在が報告されており、これらの子どもとその家族への支援が課題となっている。しかし、慢性疾患を持つ保育園児と保育園看護職との関わりについては、ほとんど明らかにされていない。よって慢性疾患を持つ保育園児が保育園生活に馴染んでいくための保育園看護職の関わりの有り様について明らかにすることを目的に研究を行った。

II 研究方法

1 都 2 県の公立および私立の認可保育園に勤務する看護職 21 名に、インタビューガイドに基づき、半構成的面接を実施した。分析方法は、グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。

III 結果

分析の結果、3 個の主要カテゴリー、8 個のカテゴリー、18 個のサブカテゴリーが抽出された。

主要カテゴリーⅠ《子どもがおかれている状況を読み取る》のカテゴリーには、子どもがおかれている生活状況を読み取る] が含まれていた。

主要カテゴリーⅡ《子どもと周囲の状況を整える》のカテゴリーには、[体調を整える] [子どもの力を引き出す] [小さな関わりで親を動かす] [自然に受け入れられるようにする] [保育士の関わりを見守る] が含まれていた。

主要カテゴリーⅢ《気付きの目がある普段の環境をつくる》のカテゴリーには、[みんなと一緒に過ごせる環境を整える] [体調の変化に気づける仲間と一緒に関わる] が含まれていた。

IV 考察

慢性疾患を持つ保育園児が保育園生活に馴染むための保育園看護職のわりは、慢性疾患を持つ保育園児と周りの子ども、保育士、親を含めた周囲の状況を整えることを意味していた。また、保育園看護職は、慢性疾患を持つ保育園児の体調の変化に気が付くことができる保育士を仲間として、慢性疾患を持つ保育園児が馴染みやすい環境を作っていた。